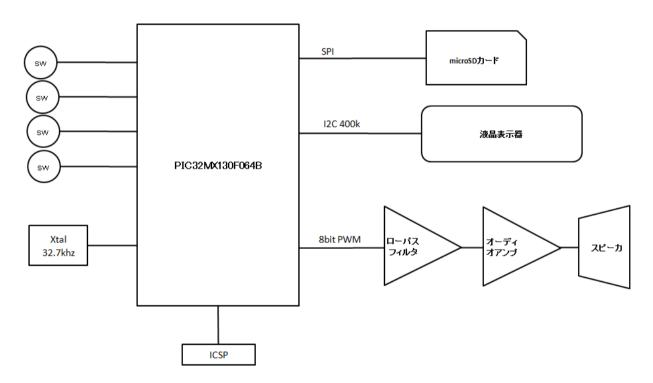
音声時計の概要 2014.03.30

基本構成

- 1 CPU PIC32MX130F064B
 - 1.1 クロック 40Mhz
 - 1.2 ROM 64K
 - 1.3 RAM 8K
- 2 周辺機能
 - 2.1 microSD カード 音声データ格納用
 - 2.2 液晶表示器 i2c_LCD SB1602B(ストロベリーリナックス)
 - 2.3 オペアンプ (ローパスフィルタ) NJM8202 (JRC)
 - 2.4 オーディオアンプ HT82V739
 - 2.5 入力スイッチ 4入力

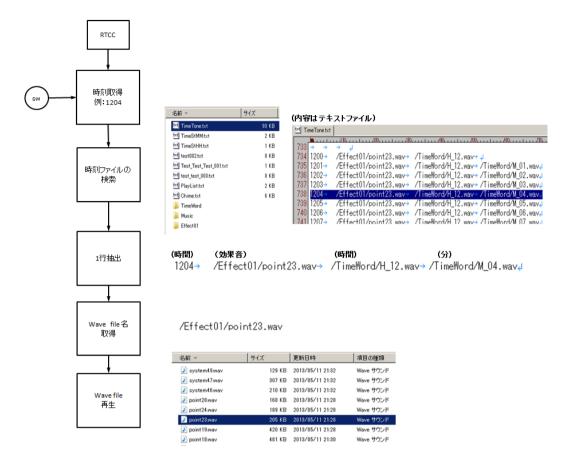


3 基本機能

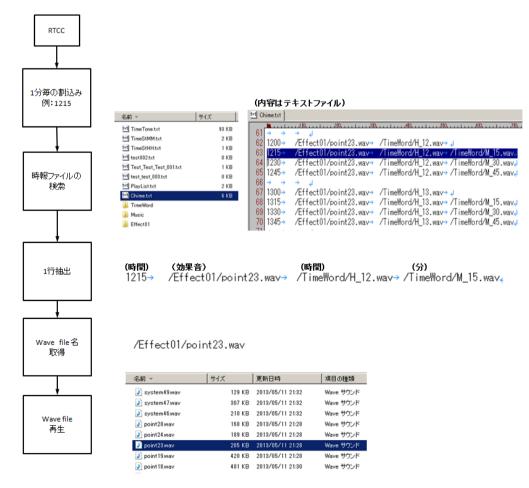
- 3.1 ボタンを押すと、現在時刻を発話
- 3.2 時報機能。15分ごとに現在時刻を発生。
- 3.3 PCM 音楽再生機能
- 3.4 音声データについては microSD カードに .wav(PCM)形式で格納して使用。
- 4 ソフトウェアの基本構成
 - 4.1 ファイルシステムとして、ChaN氏のPetitFATを使用。
 - 4.2 RTCC から読み出した時刻を元に Wave ファイルを再生する。
 - 4.3 Wave ファイルの再生能力
 - 4.3.1 入力ファイル : モノラル・ステレオ/ 8bit、16bit/ ~44.1Khz
 - 4.3.2 出力 : モノラル/ 8bit PWM/ ~44.1Khz

5 ロジック構成の概要

5.1 現在時刻の発話



5.2 時報



6 使用ツールについて

6.1 ソフトウェア : MPLAB v1.90 / XC32 v1.21

6.2 回路図 : EGLE 6.4.0 light (P板.COM に発注)

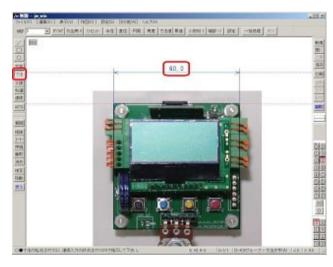
6.3 CAD : JW_CAD

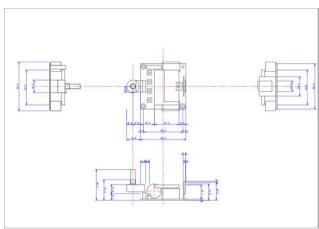
6.4 3D_CAD : Autodesk123D Design (shapeways ~発注)

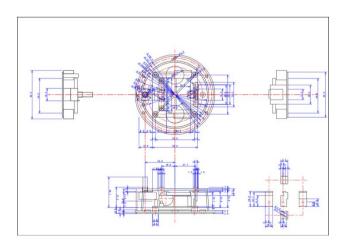
7 ケースの作成について (ケースについて、初めて 3D_CAD を使用して、3D 出力して作成しました)

7.1 JW_CAD を使用して、平面の設計図を作成する。

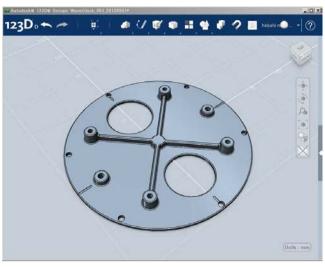
7.1.1 組み立てた基板をデジカメで写し、それを JW_CAD に貼り付けて設計の元とする。

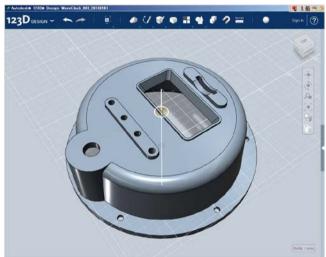






7.2 AutoCAD123 で 3D モデルを作成する。





8 課題など

8.1 消費電力

- 8.1.1 オペアンプをレールツーレールのものを選択したが、無音時の待機電力が数ミリアンペアあり、削減が課題。
- 8.1.2 夜間に時報を発声してしまうので、センサを付けて明るさを検出する予定。
- 8.2 ユーザインターフェース部分の使いやすさの向上。
- 8.3 ファイルシステムを FatFs へ変更する。
- 8.4 ファイルの検索ロジックを、整理して再利用しやすくする。
- 8.5 Wave 再生ロジックについて、整理して再利用しやすくする。

※その他、下記ブログに音声時計の記事を記載しました。MPLABのプロジェクトや設計図なども置いてありますので、もしよろしければご参照ください。

http://clockworks01.blogspot.jp/